

令和7年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	16	学校名	山県高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	個々に応じたきめ細かなキャリア教育を推進する高校として 社会と関わろうとする意欲を育てる教育活動を通して 地域で自立して活躍できる人の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、地域社会に貢献できる心豊かな人を育成します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のもつ可能性を信じ、何事にもあきらめることなく、挑戦する生徒 ・多様な人々と対話し、関わりながら課題解決に導くことのできる生徒 ・卒業後、地域社会で自立して活躍することができる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・「Relationship School」を学校のブランドとして、校内はもとより山県市をはじめとする地域の多くの方々と対話し、関わりながら学ぶことが出来る「地域連携型教育」の充実 ・少人数授業やティームティーチング、義務教育段階の「学び直し」を通して、基礎学力の定着を目指すきめ細かな指導 ・生徒一人ひとりが自分の進路希望や興味・関心に合った科目を選択し、異年齢で学ぶことも可能なカリキュラムによる個別最適な学びと協働的な学びの実践 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制で多くの人々と対話し関わりながら学びたい、自分自身を高めたいと望んでいる生徒 ・将来、地域社会で活躍したいという夢を持ち、入学後、仲間とともに進路実現に向けて一生懸命頑張りたいと考えている生徒 ・これまで様々な理由で自分の実力を発揮できなかったが、そんな自分を変えたいと本気で考え努力する生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己の適性と向き合いながら進路目標を定め、その実現に向けて主体的に努力できるよう、生徒の自己理解とキャリア意識および社会性向上のための支援が必要である。 ・基礎学力が定着しておらず、自己肯定感の低い生徒に対して、いかに本人のやる気を引き出すことができるか、そのための教師の研究・研修・研鑽が必要である。 ・年度初めの早期の生徒との関係づくりや多様な生徒への粘り強い関係づくりが求められる。 ・本校の活動が保護者・地域・企業・中学生等に的確に情報発信されていないこともあるため、より正確な情報を素早く継続的に発信していく必要がある。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	進路指導	地域と連携したキャリア教育・ふるさと教育の充実により、進路目標の実現に向けて主体的に努力できる生徒の育成	
	学習指導	「わかるまで教え、できるまで導く」のモットーを踏まえた基礎学力の定着と学力の伸長	
	生徒指導	将来地域社会で活躍できる生徒の育成	
	学校経営	「4つの類型」から選択する多彩な進路実現の地域への広報促進	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
進路指導	①4つの類型の特徴を生かして、地域の企業や関係機関と連携した課題探究学習等を充実させ、将来地域の担い手として活躍できる人材を育成	施策Ⅰ-1	①実施状況および進路実績 ②キャリア教育の実施状況および生徒の感想 ③進路実績、生徒及び保護者を対象とするアンケートにおける達成度
	②生徒が自己の適性を理解し、働くことの意義や学習と将来とのつながりが実感できるよう地元企業・施設、関連機関と連携したキャリア教育の充実	施策Ⅰ-4	
	③全職員、学校運営協議会委員、PTA役員等の協力体制による個に応じた進路支援の充実	施策Ⅰ-7	
学習指導	①類型別学校設定科目等での少人数・T・T・習熟度別授業の強化	施策Ⅳ-23	①生徒による授業アンケート結果 ②ICTを授業に活用した教員の割合 ③各種検定（漢字検定、全商協会主催検定、機械検査等）の受検促進
	②タブレットや学習支援ソフト等を活用した授業改革	施策Ⅱ-9	
	③各種検定（漢字検定、全商協会主催検定、機械検査等）の受検促進	施策Ⅱ-8	
生徒指導	①挨拶の励行や時間厳守等の基本的なマナーやルールを身に着けられるような支援	施策Ⅰ-7	①生徒及び保護者を対象とするアンケートにおける達成度 ②欠席・遅刻者数・交通事故発生件数 ③命を守る訓練の実践
	②SNS等の安全・安心な利用を推進するために、情報モラルを身に付けられるような支援	施策Ⅲ-19	
	③学校独自の取り組みを通して、交通安全教育、防災教育を充実	施策Ⅲ-19	
学校経営	①学校HPによる教育活動の積極的な広報	施策Ⅳ-20	①HP新着情報更新回数 ②新聞等の掲載数 ③小中学校訪問・学校説明会の回数
	②山県市報、新聞、ケーブルテレビ等による情報発信	施策Ⅳ-20	
	③生徒・教師による小中学校訪問・学校説明会	施策Ⅳ-20	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月23日

<p>【進路指導】</p> <p>※生徒個々のキャリアステップに応じて進路行事の目標を設定し、教員間で連携することで、効果的なキャリア支援を進める。</p> <p>※全職員および関係機関との連携を密にし、支援を必要とする生徒の就職支援について、過去の事例を共有しながらより良い支援の形を整理していきたい。</p> <p>【学習指導】</p> <p>*生徒の学力を向上させるには、目に見える成果に注視するばかりではなく、主体性・やり抜く力・創造性・好奇心・自制心・柔軟性、共感性・コミュニケーション力・社会性・協働性など、数値等では表せない「非認知能力」を育む教育活動を通して自己肯定感や自信を持たせるといった視点こそが、本校生徒には必要不可欠であると確信した。今後授業内でどのように実践できるのか、そのための授業研究を進めていきたい。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>*生徒個々に対する個別の対応について、本年度も特性をもつ生徒の割合が昨年度よりも増加したが、1年次の二人担任制の導入でクラスを複数教員が正担任として担当することで、役割を共有・分担して生徒と向き合うことができた。また、学年団の情報共有と情報交換を大切に、クラス経営を充実させることができた。次年度も密な情報共有を継続する。</p> <p>【学校経営】</p> <p>*今年度生徒の取り組みを積極的に広報するために、公式Instagramを開設した。本校生徒・保護者はもちろん、地域の方や関係施設からも大変好評で、新規投稿を楽しみにしていただいている。来年度は生徒に投稿記事を作成してもらうことで、生徒の表現力と主体性を育むとともに、実践的な情報モラル教育も実施していきたい。</p>
--

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<p>①約9割が地元企業へ就職（山県市、関市、岐阜市等）地域の※関連機関との連携により各類型の特徴を生かした体験的な学習を充実させた。</p> <p>※地元企業8社（企業実習）、みやま保育園、高富児童館、山県市社会福祉協議会、北部地域包括センター、一鷗、伊自良中学校、JAぎふ美山、山県市役所、Study Habit教室など</p> <p>②インターンシップをはじめとする地元企業探究学習の充実のため、学校設定教科「地域創生」を新設し、増加単位科目として「地域創生演習」を設置、希望者40名が履修・修得した。</p> <p>③就職内定率98%（紹介36名 縁故3名）進学決定率100%（四大10名、短大1名、専門9名）</p> <p>④進路支援関連項目に対して生徒・保護者とも80%以上あてはまると回答（アンケート結果より）</p>	A	<p>①各類型の学習を地域連携による実践的な活動で発展させ、実施と振り返りを重ねることで、生徒が自分の特性を理解し、意欲や自己肯定感、発想力などの非認知能力の向上につながっている。</p> <p>②地元企業や関連機関と連携したキャリア教育を軸に、個々の適性やキャリアステップに応じた段階的な進路支援を充実させることができた。その結果、これまで以上に早い段階から進路実現に向けて主体的に探究する生徒が増えた。</p> <p>③3年次には、担任をはじめ全職員と外部関係者が進路支援に集中できる期間と時間を設けた。この体制により、生徒一人ひとりの特性や希望に合わせた相談、面接指導、試験対策を行うことができ、生徒の自信の向上と進路実現につながった。</p>	A
<p>①生徒による授業アンケートによると、「ICTを活用した授業が行われている」と答えた生徒が約72.3%であった。また、「先生の授業はわかりやすい」と答えた生徒が約90.1%であった。</p> <p>②ほぼ全員の教員がICTを活用した。</p> <p>③「漢字検定」準2級57.2→50.0、3級47.6→71.3、4級45.5→46.2。「全商ビジネス」1級文書14.3→100.0、1級速度11.1→33.3、2級文書50.0→54.5、2級速度62.5→75.0。「機械検査」62.5→50.0</p>	A	<p>①授業に積極的に参加する生徒が増えた分、教室を抜け出す生徒の数が昨年度より減ったように思われる。特に保健室の利用率は、昨年度より減っている。</p> <p>②ICTを積極的に活用している教員からは、ソフトを使ういかなる生徒が増え、もっと授業で使ってほしいといった要望や、自分で積極的に活用する生徒が現れたといった報告があった。</p> <p>③今後も積極的な受検を促したい。</p>	A
<p>【生徒向け講話】</p> <p>情報モラル、交通安全、人権、防犯薬物乱用防止</p> <p>①身だしなみ指導（各学期期首）を実施。アンケートで「あてはまる」と評価、生徒8割、保護者7割。</p> <p>②4月の情報モラル、11月の防犯薬物防止の講話や長期休業前にも呼びかけを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故発生件数：R7…3件、R6…5件 ③交通安全啓発活動（MSリダーズ）やPTAと連携した登校指導、命を守るための学習を実施。 	B	<p>①身だしなみ指導では、生徒にセルフチェックとしてフォーマルな装いと知識が身につけているかを問いかけながら実施した。次年度も基本的なマナーやルールについての周知を含め実施する。</p> <p>②各種講話は、次年度も実施する。講話の内容が生徒にとって身近なものとなるようにし、注意喚起を進める。</p> <p>③今後も外部機関と連携した活動を継続する。自転車通学者のヘルメット着用を呼びかける。</p>	B
<p>①HP発信からSNS発信に切り替えた。6月から運営を開始し、現在122記事を投稿した。（1/21現在）</p> <p>②山県市広報1記事、新聞8記事、CCNエリアトピックス1回</p> <p>③普通類型－StudyHabitサポーターにて美山小に8回訪問 商業類型－課題研究授業で伊自良中と1回交流 説明会－2日間開催、保護者を含め179名参加 中学校交流－山県市内の中学校に教員が訪問し授業参観や中学生との交流を実施</p>	A	<p>①行事写真担当者だけでなく、多くの先生方に授業の取り組みを撮影してもらったことで本校SNSがさらに活性化された。来年度も継続したい。</p> <p>②文芸部の活躍、商業類型の課題研究授業（カフェ経営体験）など、様々な事業を発信することができた。</p> <p>③学校説明会は、昨年度よりもさらに生徒が主体となって伝えることができた。来年度も継続する。</p>	A

学校関係者評価

実施日：令和8年1月28日

<p>・Instagramでの学校の発信はエネルギーにあふれており、とても感心して見ている。入学志願者が増えるように、ぜひ今後も継続してほしい。</p> <p>・来年度は、生徒自身にInstagramの投稿記事を作成させ、表現力と主体性を育てる教育を進めてほしい。学習成果発表会の生徒の姿から、その実現は十分可能だ。</p> <p>・教職員は日常的に生徒を見ているため成長に気づきにくい、外部から見ると生徒は大きく成長している。その成長を支えているのは教職員の理解と協力であり、今後もその姿勢を周囲にも、そして何より生徒に示してほしい。</p> <p>・生徒は地域での交流や体験学習を通じて社会での生き方を学び、自信をつけている。また、その経験が進路を明確に描くことにもつながっている。</p> <p>・学校経営の評価では、アンケート結果や日常の変化、生徒と教師の関わりなどが丁寧にとまとめられ、目標を十分に達成している。</p>
